

Topic

～仙台城の整備事業について～

仙台城跡では「史跡仙台城跡整備基本計画」に基づき整備を行っています。今回は、今後の整備予定についてご紹介します！

ひがしまる どのい 東丸（三の丸）土塁園路整備

みなさん、土塁とは何かご存じですか？土塁は城を守るための防御施設で、土を盛って作られたものです。仙台城跡にも、仙台市博物館の北側と東側に土塁が存在します。江戸時代の仙台城を記した絵図にも描かれており、城を構成する遺構の一つです。土塁の上に立つと高さを体感でき、お城の防御施設としての役割を身近に感じることができます。

しかし、土塁は高さがあり、斜面になっているため、現状では上に登るには大変です。そのため多くの方に仙台城の歴史を身近に感じてもらえるよう、長沼に面した東側の土塁に、スロープや階段を設置し、土塁上を散策できるよう、園路整備を予定しております。長沼側には転落防止のための柵を設置し安全管理にも努めます。隣接する長沼には、野鳥が飛来するため、お城らしい景観と自然環境が調和した場所となるよう、整備を進めていきます。なお、工事は来年度を予定しています。



←土塁と桜（令和7年4月撮影）

たつみやぐらあと 巽櫓跡周辺

江戸時代、仙台城には本丸御殿や櫓等、多くの建物が存在していました。火災や戦争、老朽化による取壊しで失われましたが、地面の中には建物の痕跡（柱跡などの遺構）が今でも残っています。

今回紹介するのは「巽櫓跡」です。この櫓は、かつて本丸の南側に存在していました。江戸時代の仙台城を記した絵図（奥州仙台絵図）には、3階建・瓦葺きの櫓として表記されています。

この櫓は、1646年（正保3年）に起きた地震により倒壊し、以後再建されなかったそうです。平成14年に発掘調査が行われた際には、櫓台の石垣や建物の礎石等の遺構が見つかりましたが、一方で過去の地震により崖面が崩落しており、遺構の半分以上が滅失していることも判明しました。さらに東日本大震災の際にも崖際が一部崩落したため、これ以上被害を拡大させないために法面の一部を補強しています。

巽櫓跡付近では、「経ヶ峯（瑞鳳殿）」、「愛宕山」、「大年寺山」を一望することができます。それぞれ伊達家にゆかりのある場所です。

こうした景色もアピールしていけるよう、今後、どのように整備していくか計画していきます。



←本丸エリア全体図



←巽櫓周辺からの眺め